

平成29年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- | |
|---|
| (1) 子どもが安心して学ぶことができる安全な学校
(2) 道徳教育や人権教育を大切に、豊かな心を育む学校（ 明るく思いやりのある子 ）
(3) 確かな学力と体力を育む学校（ 自分から学習する子 元気でたくましい子 ） |
|---|

2 中期的目標

- | |
|--|
| (1) 安全安心な学校づくり
希望や展望の礎となる、差別のない、全ての児童と教職員が自分らしくあることのできる教育空間をつくる。
① 児童が「守られている」と実感できる学校をめざす。
② 開かれた学校づくりを進める。
③ 千里丘新町の誕生に伴う、学校規模の拡大に対応する。
④ 正確で信頼される情報管理と発信のシステムを構築し、実施する。
⑤ 全児童の必要に応じた支援を早期に行えるようスクリーニングシステムを構築する。
⑥ 子どもたちの心の居場所を作る。
⑦ 関係団体と連携して、子どもたちの地域での様子を見守り支援する。
⑧ 小中一貫教育を推進する。
(2) 豊かな心の育成
① 今年度も『自分が好き！みんなが好き！笑顔かがやく千小っ子！』をスローガンとし、「受容」をベースにして、子どもたちの自尊感情や自己肯定感を高める取り組みを、人権生活指導委員会を中心に全ての場面で進めていく。
② 子どもたちに規範意識や思いやりの心が育つよう、学校全体で道徳教育に取り組んでいく。そのために、道徳の授業のあり方を研究する。
③ 「いじめ」をなくすために、豊かな人間関係を構築する能力や人権感覚を養う。
(3) 希望にあふれた教職員集団
① 仕事による自己実現の素晴らしさに気づき、主体的、能動的、機能的に職務に取り組もうとする教職員集団をめざす。
② 子どもと共に学び成長する教師であることの誇りと喜びを実感できる職場を作る。
③ 教職員の心身の健康が、教育のベースであることを踏まえ、職場環境の改善を図る。
④ 責任とやり甲斐を感じられるよう、個々の能力を充分発揮できる校務分掌づくりに取り組む。
(4) 確かな学力と体力の育成
① 「考える力」をテーマとして研究してきた成果を生かし、「交流」を軸にした、児童が主体的に参加できる わかる授業づくりに取り組む。
「聴く」「話す」「書く」「読む」などの基本的な力を育むことで、思考力、判断力、表現力の伸長を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 読んだり聴いたりしたことを、理解し自己の行動に反映させ、熟考する力。 ・ 様々なメディアを双方向に活用して自分の考えを適切に表現する力。 ・ 友だちと学び合い、高め合う力。 ・ 文章を書く力。 以上、4つの力の育成を旨とし、学力向上研究推進委員会を中心に取り組む。
② 全国学力・学習状況調査の国語Bと算数Bにおける平均正答率が、全国平均を上回る事を一つの目安とする。
③ 4～6年生で少人数分割指導を行う。
④ 運動を楽しむ事ができる子どもを育てる。 |
|--|

学校教育自己診断の結果と分析、学校協議会からの意見

学校教育自己診断の結果と分析（平成29年12月実施分）	学校協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童への生活アンケート「学校に行くのが楽しいですか。」約84%、「友だちと仲良く遊んでいる」約97%と昨年度より低い数値を示した。全ての児童が安心して楽しく通える学校にしていくために努力する。 ・ 「授業は分かりやすい」88%と目標値90%に届かなかった。先生に質問しやすいと感じている児童の割合も昨年度の75%から65%へと大きく減少しており、授業中の個別支援方法等について見直しを図る必要を感じている。 ・ 「睡眠時間は足りていますか」約71% 「学校のプリントやテストは必ず見せていますか」72% 「テレビを見たり、ゲームをしたりする時間を決めていますか」48%と、昨年同様の低い数値であり、取り組みの不足を感じている。 ・ 保護者の回答では、「学校は、いじめや不登校のない学校づくりに取り組んでいる」75%と昨年度より向上している。しかし取り組みが十分とは言えない状況がある。保護者への啓発及び児童への集団作りの充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査結果の①⑦⑫等が下降している事を先生方がしっかりと受け止め「何故？」と探って欲しい。より、楽しい達成感や充足感のある取り組みが望まれる。子どもたちから信頼される関係づくり、子どもたちが相互に信頼しあえる関係づくりに終点は無い。日常活動の中で構築されたい。 ・ 近所の公園で子どもたちは助け合いながら遊んでいる。自分と相手の気持ちを時に応じて優先し合うことができている。 ・ 先生方は自信と情熱を持って日々取り組み、工夫や気配りのある授業をされている。今後は、更に報告連絡相談を密にし、先生達の協力体制が子どもたちに見えるようにして欲しい。 ・ 児童、一人一人ともしっかりと深い関係を築き、児童の可能性を更に引き出して欲しい。先生方の表現力が求められていると感じる。 ・ セーフティーパトロール下校訓練により、地域と学校との協働による安全安心な学校づくりをすすめている。地域の不審者事案も非常に少ない。 ・ 落ち着いた学校づくりが全ての土台だと感じています。 ・ 依然1割の子が朝食を抜くことがある。学校外での生活の問題が浮かび上がります。 ・ 全国学力調査の結果から、本年度も高いレベルを達成できたこと

	<p>は、先生方の努力のお陰だと思えます。ただ、「質問しやすい」「授業が分かりやすい」といったアンケート項目の肯定的意見が下降しているのは、もしかしたら二極化が進んでいるのかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で取り組んでおられる交流を生かした道徳教育にも力を入れて欲しい。
--	---

3 今年度の重点目標と具体的な教育活動

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な教育活動	評価指標	自己評価
(1) 安全安心な学校づくり	<p>① あいさつをすることができる児童を育成する。</p> <p>② 落ち着いて歩くことができる習慣を作る。</p> <p>③ 学校協議会の活性化を図る。</p> <p>④ ホームページの活用を図る。</p> <p>⑤ 正確で適切な情報の管理と発信を行う。</p> <p>⑥ スクリーニングシステムを構築する。</p> <p>⑦ 子どもたちの心の居場所を作る。</p> <p>⑧ 関係団体と連携して、子どもたちの地域での様子を見守り、支援する。</p> <p>⑨ 防災教育を心の教育として位置づけ、道徳や総合的学習と関連づけながら地域と協働で実施する。</p> <p>⑩ 小中一貫教育を推進する。</p>	<p>① 受容を背景に、自分らしくあいさつすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や教職員によるあいさつ活動 ・保護者によるあいさつ活動 <p>② 廊下を歩く練習や、児童委員会活動等による啓発活動を実施する。</p> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校協議委員による授業参観や九九聞き取り授業を実施する。 ・関係者評価の方法と内容の見直しをする。 <p>④ ホームページ学校運用を開始すると同時に保護者や地域との双方向情報発信に努める。</p> <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールやデータベースによる情報管理を推進する。 ・徴収金管理を複数で行う。 <p>⑥ 情報の一括管理によるスクリーニングシステムを構築し、早期支援を実現する。</p> <p>⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめを「かっこ悪い」と言える児童の育成に向け、防災教育や道徳教育を中心として、教科に横のつながりを持たせ、全ての教科を通じて心の教育を行う。 ・いじめ防止基本方針の見直しを行う。 ・人権教育と支援教育の校内自主研修を実施し、教職員の専門性を高める。 ・スクリーニングシステムと情報管理システムを活用して、いきいき支援委員会の効率化を図り、虐待への早期対応を図る。 <p>⑧ 保護者や地域と一緒に、下校時の見守り活動や緊急時を想定した 保護者への引き渡し訓練を実施する。</p> <p>⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が児童の近くにいないときを想定し、訓練を行う。 ・1.17の日に、命の大切さを学び、かけがえのない命を、どのようにして守るのか考える機会を作りその内容を発信する。 ・緊急時フローチャートを作り教室に配置する。 <p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区三校の校長が相互に、他校の全校集会等で講話を行う。 ・中学校区三校間で授業参観を実施する。 ・夏期合同研修をPDC Aサイクルにより、活性化する。 ・管理職も含めた、小中一貫教育担当者会議を年複数回実施する。 ・学力調査結果や不登校児童の状況等について共有化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの「集団生活のルールについて考えましたか」の肯定率が95%以上である。 ・人権教育と支援教育及びいじめ防止についての研修をそれぞれ年1回以上実施する。 ・スクリーニングシステムを構築する。 ・児童アンケート「学校へ行くのが楽しいですか。」「学校では、友だちと仲よく遊んでいますか。」「危険なめにあったとき、どうすればよいか自分の頭の中ですぐに思い浮かびますか。」「台風や地震や火災、身に危険がせまったとき、どうしたらよいか理解できていますか。」について今年度数値を上回る肯定的回答を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの「集団生活のルールについて考えましたか」の肯定率が90%であり、目標に届かなかった。全校集会で校長から話したり、児童委員会活動で「廊下は美しく歩こう！」運動を行ったりしたが、95%を達成するためには取り組みが不足していた。クラスで話し合う等、児童の主体的で対話的な活動を取り入れる必要があると考えている。 ・それぞれについて、自主的に研修を実施することができた。特に支援教育研修は、系統立てて5回実施した。 ・直音検査によるスクリーニングシステムをほぼ構築することができた。平成30年度から実施する予定である。 ・児童アンケート結果について <ul style="list-style-type: none"> ▶「学校へ行くのが楽しいですか。」 H28 90% ▶ H29 84% ▶「学校では、友だちと仲よく遊んでいますか。」 H28 98% ▶ H29 97% ▶「危険なめにあったとき、どうすればよいか自分の頭の中ですぐに思い浮かびますか。」 H28 82% ▶ H29 83% ▶「台風や地震や火災、身に危険がせまったとき、どうしたらよいか理解できていますか。」 H28 91% ▶ H29 92% 全クラスで防災授業を実施したうえで、児童の近くに教職員がいないケースを想定した訓練を、開始時刻を告げずに実施するなど、新しい試みに意欲的に取り組んだ。 ・「学校へ行くのが楽しいですか。」について、大きく落ち込みを見せた。児童を理解し必要な支援が適切にできているのか見直す必要がある。 ・他の項目については、概ね昨年度並みか超えるものであり、成果が現れていると判断して良いと考える。 ・いじめを「かっこ悪い」と言える児童の育成にまでは至っていない。「悪い」と知っていることと、「かっこ悪い」と言えることの間には大きな違いがあると感じている。 ・いじめ防止基本方針の見直しを行った。 ・人権教育と支援教育の校内研修を行い、それを受けて、全クラスで授業を実施した。 ・中学校区三校の校長が相互に、他校の全校集会等で講話を行った。 ・中学校区三校間で授業参観を実施した。 ・夏期合同研修は、年度内のPDC Aサイクルによる見直しをすることはできなかった。

<p>(2) 豊かな心の育成</p>	<p>① あいさつをすることができる児童を育成する。 ② 道徳教育の充実 ・子どもたちの自尊感情や自己肯定感を高める。 ・「道徳の時間」を確立させて道徳の授業のあり方を研究する。 ・人権感覚や人間関係を構築する能力を身につけさせる。 ③ 地域との交流</p>	<p>① あいさつを最もシンプルな交流と考え、教職員や児童によるあいさつ活動を行う。 ② ・道徳や総合的な学習を中心として教科に横のつながりを作り、全ての授業の基盤として道徳を位置づける。 ・「道徳の時間」の指導について年1回以上の研究授業を実施する。また、子どもの実態に応じた授業を展開できるよう、教材研究を行う。 ・子どもたちの実態に学び、いかに学級集団や学年集団を作るのか研究する。 ③ むかし遊びや火育を通じて、地域の方々との交流を深める。教えてもらうだけでなく、自分たちが学んだことを発表する場としても取り組む。</p>	<p>・児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」について肯定的回答を90%以上にする。 ・研究授業を1回以上実施し、道徳についての研究を全校で行う。</p>	<p>・児童や教職員による、あいさつ活動を実施し、児童の気持ちよい自主的なあいさつが多く聞かれる学校になってきている。しかし、「学校へ行くのが楽しい」と回答した児童割合は減少した。 ・道徳や総合的な学習を中心として教科に横のつながりを作る動きを作ることは出来なかった。学校協議委員からも道徳教育の充実が求められており、実践しなければならない。</p>
<p>(3) 希望にあふれた教職員集団</p>	<p>① 教師であることの誇りや喜びを実感できる職場を作る。 ② 職場環境の改善を図る。 ③ 責任とやり甲斐を感じられるよう、個々の能力を充分発揮できる校務分掌づくりに取り組む。</p>	<p>・メンターチームによるミニ研修を月1回実施する。 ・一人1回、他市の研修や研究会等に参加し、校内に持ち帰り、校内自主研修を行う。特に人権意識の向上と支援教育の専門性向上を図る。 ・子どもや保護者と双方向に意見や情報を交換し、教師の責任や誇りを実感できる機会をデザインする。 ・職場環境、特に勤務時間について改善を図る。ノー残業デーを実施する。 ・校務分掌の見直しを進める。</p>	<p>・メンターチームによる月1回のミニ研修を実施する。 ・一人1回、校内自主研修を担当する。 ・子どもや保護者と交流できる場を設定する。 ・ノー残業デーを実施する。 ・校務分掌の見直しをする。</p>	<p>・ミニ研修を月に1回以上のペースで実施した。 ・2月の時点で、ほぼ全ての教員が校内自主研修を担当した。 ・ホームページや学校だよりにより、交流の場を設定しようとしたが、十分な説明や準備ができず、実現できなかった。 ・ノー残業デーを水曜日に実施した。 ・校務分掌の見直しを一部行うことができたが、全体的には不十分である。</p>
<p>(4) 確かな学力と体力の育成</p>	<p>① 児童が主体的に学ぶ、わかる授業づくり ・文章を書く力を養う。 ・「考える力」「表現する力」の育成。 ② 自学自習力をつける ・家庭学習の定着。 ・自主勉強を増やす。 ③ 運動を楽しむ事ができる子どもを育てる。 ④ DREAMの運用を開始する。</p>	<p>① ・様々な教科に交流を取り入れ、児童が主体的に互いに学び合う授業づくりを推進する。 ・めあてや振り返りなどを授業スタンダードとして定着させる。 ・文集づくりなど文字を書くことを通じて「考える力」「表現する力」を養う。また、タブレットPCを活用するなどして、効率的な発表機会を設定し交流させる。 ② ・5年生を対象にした「放課後学習広場」を行う。 ・「家庭学習の手引き」を配付し、家庭の協力を得る。 ・プリントやテストを活用して、家庭で保護者に、子どもと一緒に考えてもらえる機会を作る。 ・家庭学習の時間を定期的に調査し、ホームページ等を活用して児童の実態を発信し、保護者に啓発する。 ③ ・千小っ子運動タイムやドッジボール大会等のレクリエーションな運動時間を積極的に活用する。 ・運動会のフラッグ演技に更に工夫を加え、千里丘小の伝統的な演技に進化させる。 ④ 朝学習の時間を活用してDREAMの時間を設定し、新たな教科英語導入に備える。</p>	<p>・児童の生活アンケート「話し合いで自分の意見を言う」の肯定率を90%以上にする。 ・児童の生活アンケート「授業はわかりやすいですか」の肯定率を90%以上にする。 ・家庭学習の時間を定期的に調査し、増加させる。 ・摂津市学力定着度調査(2～6年生)で全国平均を上回る。</p>	<p>▶「話し合いで自分の意見を言う」 H28 88% ▶ H29 84% ・様々な教科で交流を取り入れ、意見を言う機会を設定しているが、以前の基準では肯定的に判断できない新たな基準が児童の中に育っているのではないかと考えられる。何れにしろ、「今の必要」に応じられる指導力を追い求めなくてはならない。 ▶「授業はわかりやすいですか」 H28 91% ▶ H29 88% ・「先生に質問しやすいですか」(H28 75% ▶ H29 65%)や、「話し合いで自分の意見を言う」についての結果と併せて考えなくてはならない。「分かりやすい」「楽しい」「意見を言う」等について、その意味から考えてみる必要があるのではないかと、学校協議委員からも意見をいただいた。また、同様にいただいた「二極化が進んでいるのかも知れない」というご意見は、「分かりやすい授業」や「楽しい授業」について考察し、実施するうえでも貴重な視点であると考えている。 ・家庭学習の時間を調査したが、定期的ではなかった。また、平成28年度と比べて増加させることもできなかった。 ・摂津市学力定着度調査(2～6年生)で全国平均をほぼ上回ることができた。一部、達成できなかった点については、今後の課題として次年度に引き継ぐ。 ・子どもたちは、千小っ子運動タイムやドッジボール大会等のレクリエーションな運動時間を心から楽しむことができている。 ・DREAMを昼休みに実施し、英語に慣れ親しむ機会にすることができた。また、教職員も英語指導の機会として、担任クラス以外もローテーションして担当する等、指導方法を工夫しながら取り組み、経験を広げることができた。</p>